

あぶくま農学校「土の塾」が開催される 十二名の塾生が参加し農業体験 公開講座「農業とデザイン」

八月十八日から二十一日までの四日間、あぶくま農学校「土の塾」が開催されました。

「土の塾」は、新規就農希望者と農業に興味のある方を対象とした農業塾で、今年で五回目となります。参加者は十一名で県内だけでなく、首都圏などからも参加者がありました。

一日目は開講式の後、ライスセンターや江尻排水機場などの農業施設を見学。夜間も宮城県の新規就農支援措置や農業振興公社の概要などについて講義を受けました。

二日目は「べこやの洋ちゃん」の山田洋一さんと、稲作農



家の面川義明さん宅を見学し、夜は公開講座として講演会を開催しました。

三日目は六つのグループに分かれて、市内の農家で農業体験を行い、夜は百姓先生を交えての懇親会が開催されました。

最終日は、閉講式を行い、塾生ひとりひとりに佐藤清吉理事長より修了証書が手渡されました。

また、八月二十一日から二十三日にかけては、農家ホームステイが行われ、六名の塾生が参加しました。

「土の塾」の公開講座として、八月十九日に「農業とデザイン」と題した講演会が開催されました。講師の吉田正之氏は日本でも有数のデザイナーで、ワインでの町おこしを成功させた宮崎県の都農ワインのデザイナーなどを手がけた方です。また、あぶくま農学校の麦わら帽子のシンボルマークも吉田氏がデザインしています。



築を求められている。これからは、「人・モノ・金・情報」といった、体力型経営資源だけでなく、「知力・魅力」という新たな経営資源の創出が不可欠」として、農業の魅力ブランドデザインとして表現し、消費者に選択してもらうことの重要性を訴えました。また、「売り手の視点ではなく、買い手の視点でマーケティングすることが重要」として、消費者の立場から価値やコスト、利便性を考え、買い手とのコミュニケーションを図ることが必要であると語りました。